

令和7年度健康に関するアンケート結果について

1 目的

日吉津村健康づくり連絡会で健康を維持し増進を図ることを願い、今後のよりよい健康づくり事業に繋げるため、健康に関する意識や状況の実態把握を目的とした。

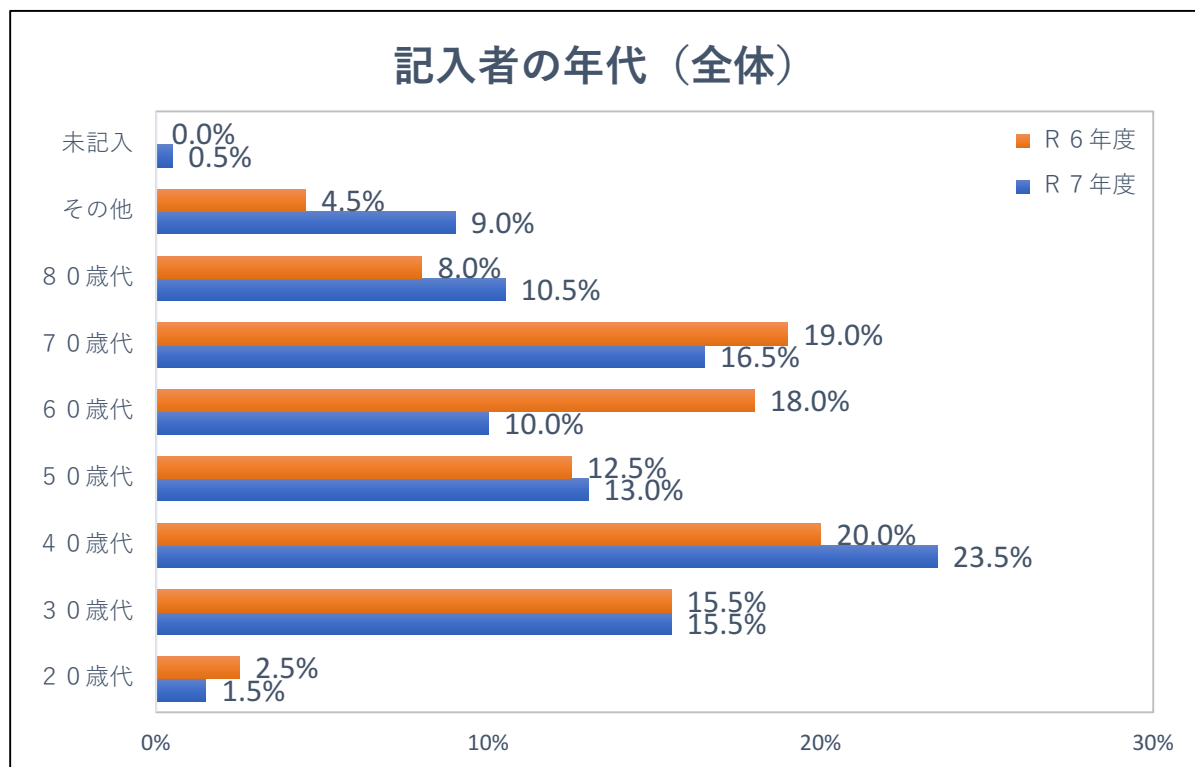
2 調査方法

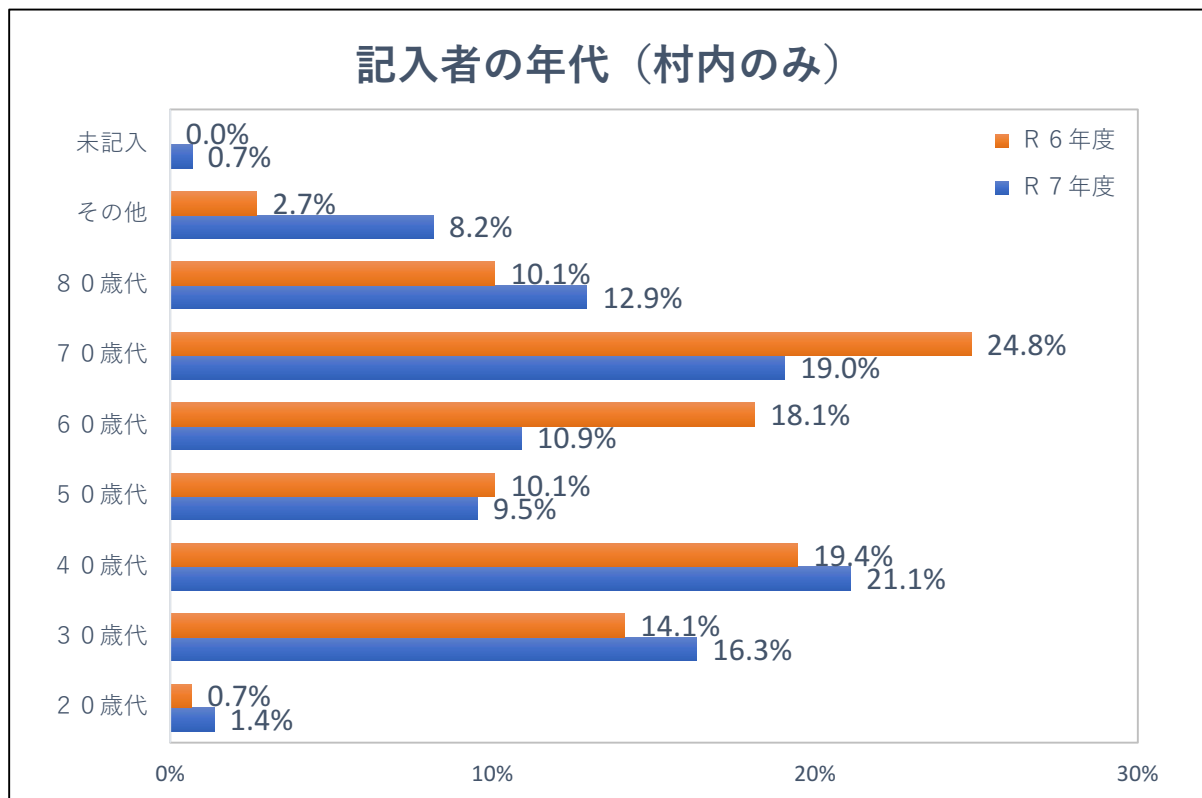
- (1) 対象 ふれあいフェスタ2025ひえづ来場者
- (2) 時期 令和7年11月2日(日)
- (3) 方法 健康づくり連絡会調査部会委員が配布し、その場で記入してもらい回収。(アンケート用紙は、200枚準備。)

3 結果

回収率 100% (回収数 200枚)
(令和6年度回収率：100% (回収数 200枚))

(1) 記入者の年代

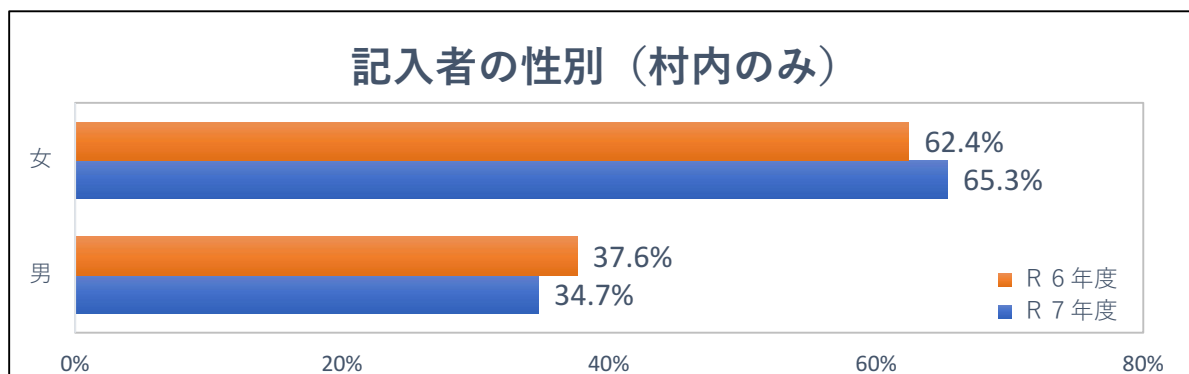
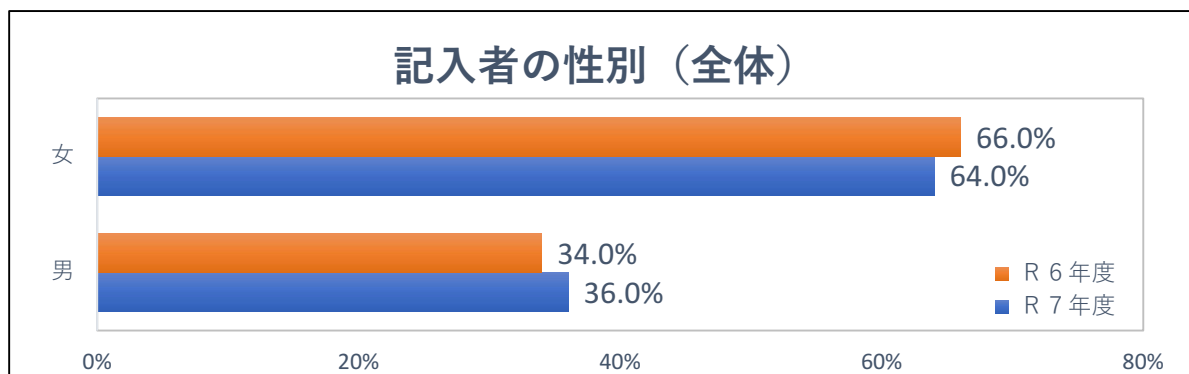




令和6年度より、村内の20・30・40・80歳代の人が増え、50・60・70歳代の人が減っていた。60歳代は、令和6年度の約6割に減っていた。

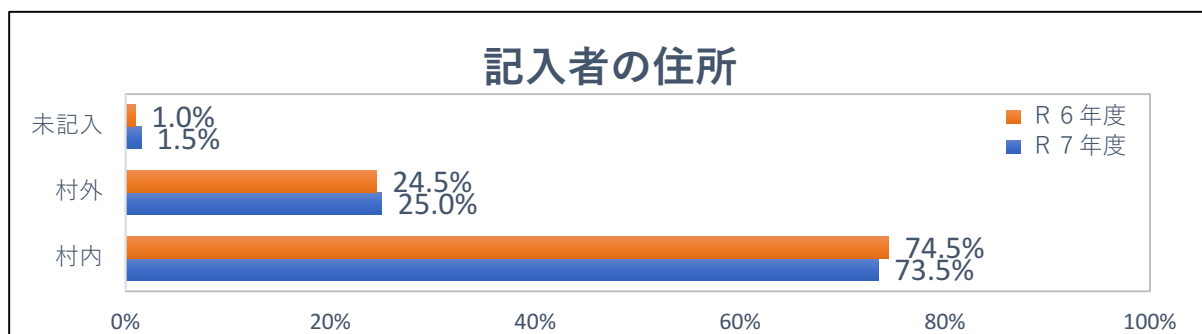
全体・村内とも、40歳代の記入者が最も多かった。

（2）記入者の性別



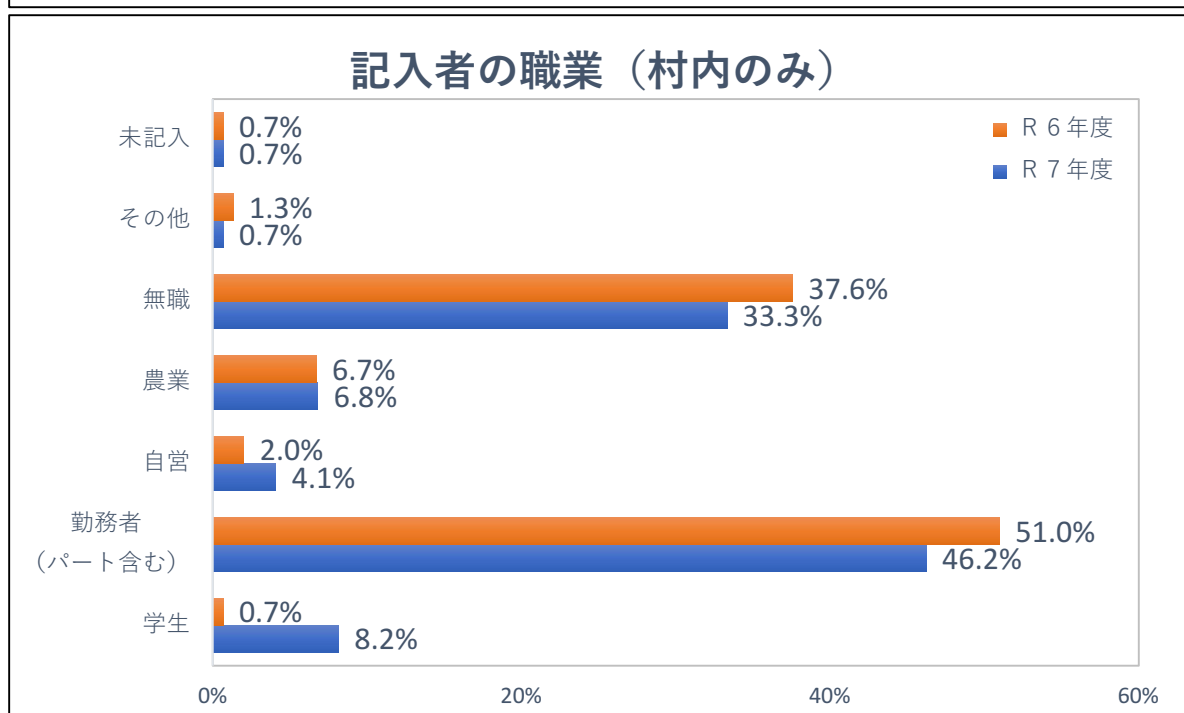
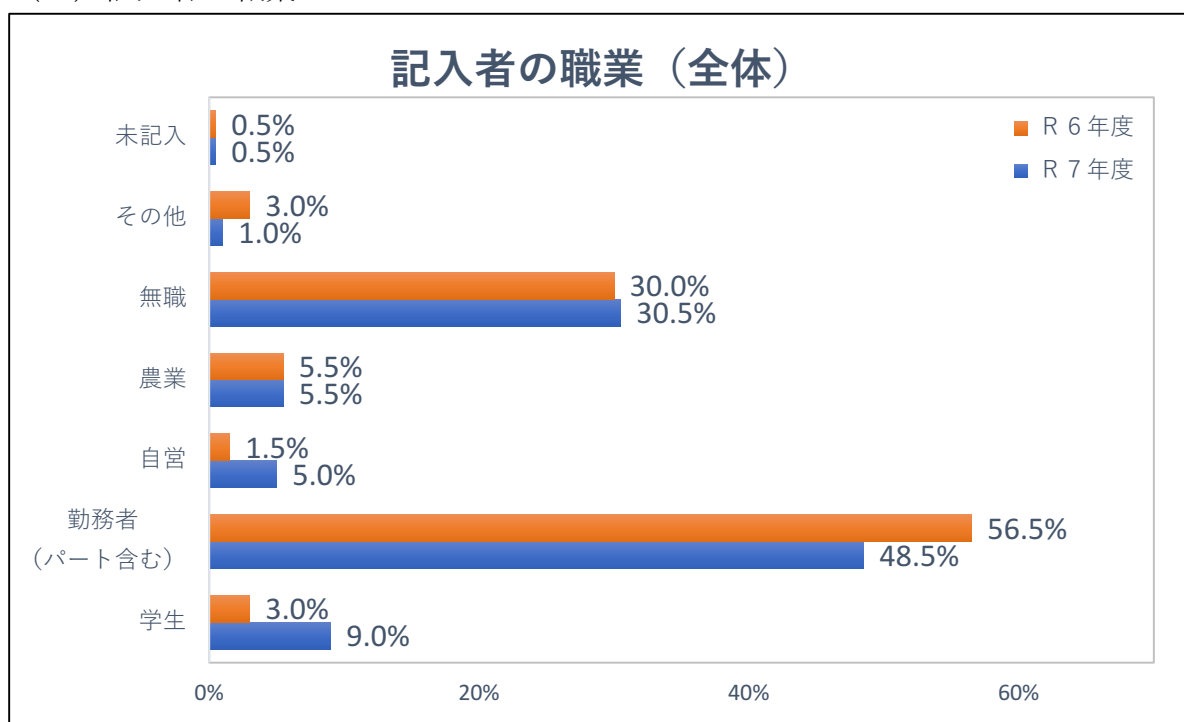
全体では男性が増え、村内では女性が増えていたが、男性より女性が約1.8倍多かった。

(3) 記入者の住所



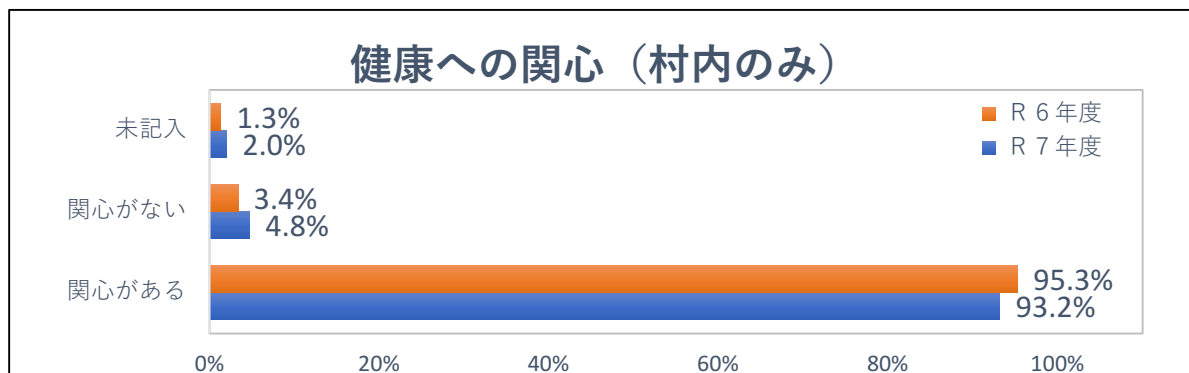
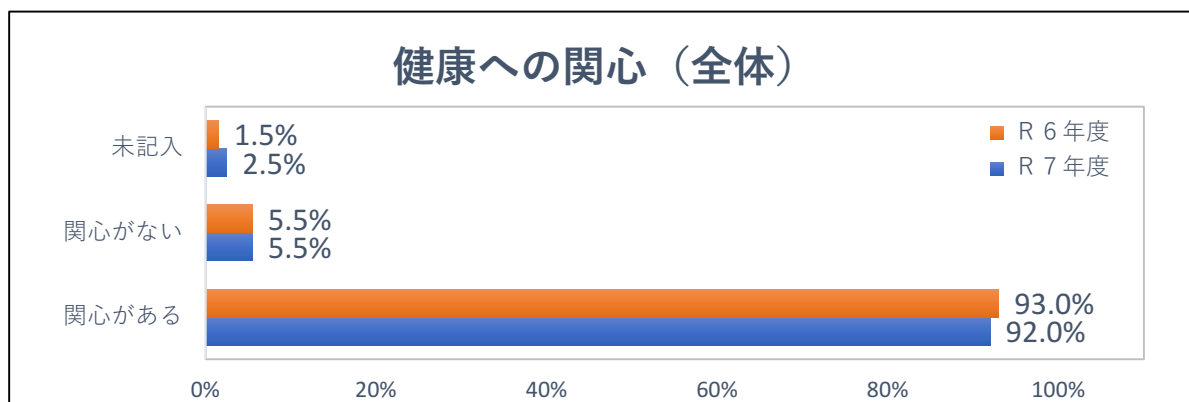
村内の方が73.5%と、村外の方より約2.9倍多かった。

(4) 記入者の職業



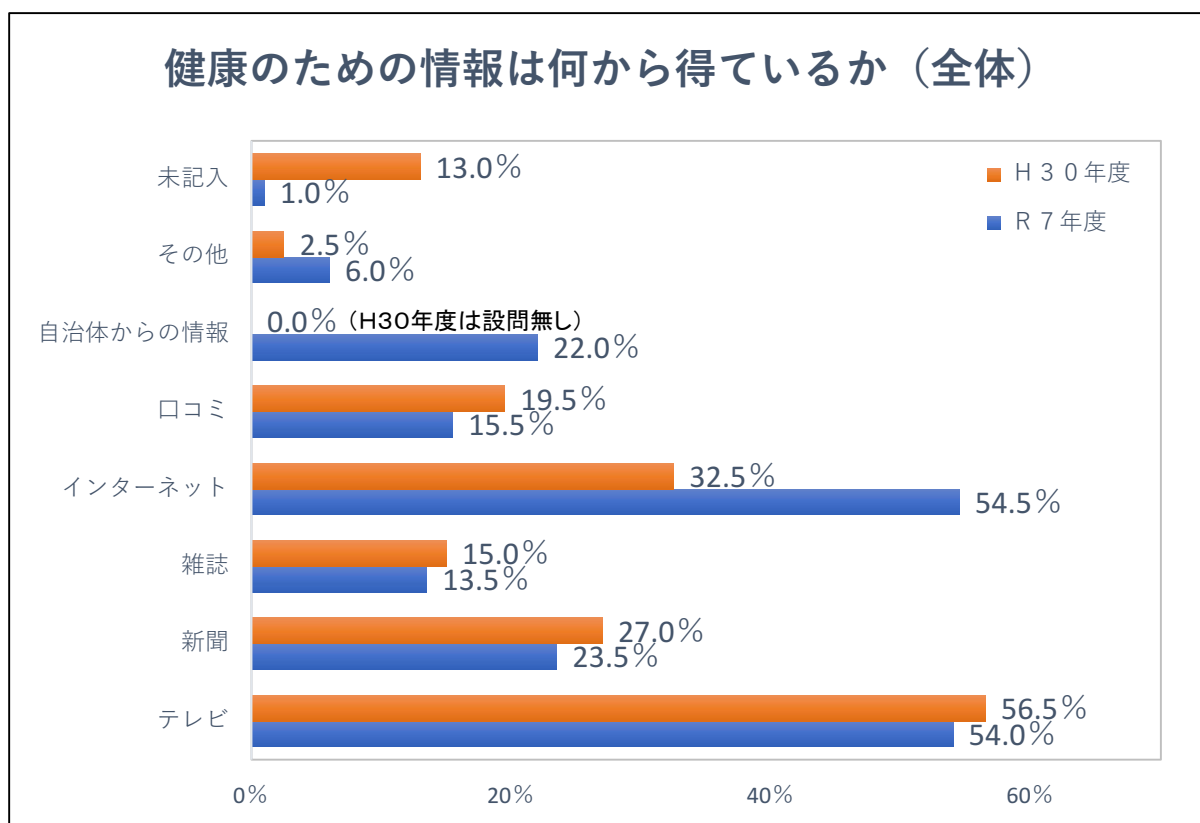
全体・村内ともに勤務者が最も多く、次いで無職が多かった。

（５）健康への関心について

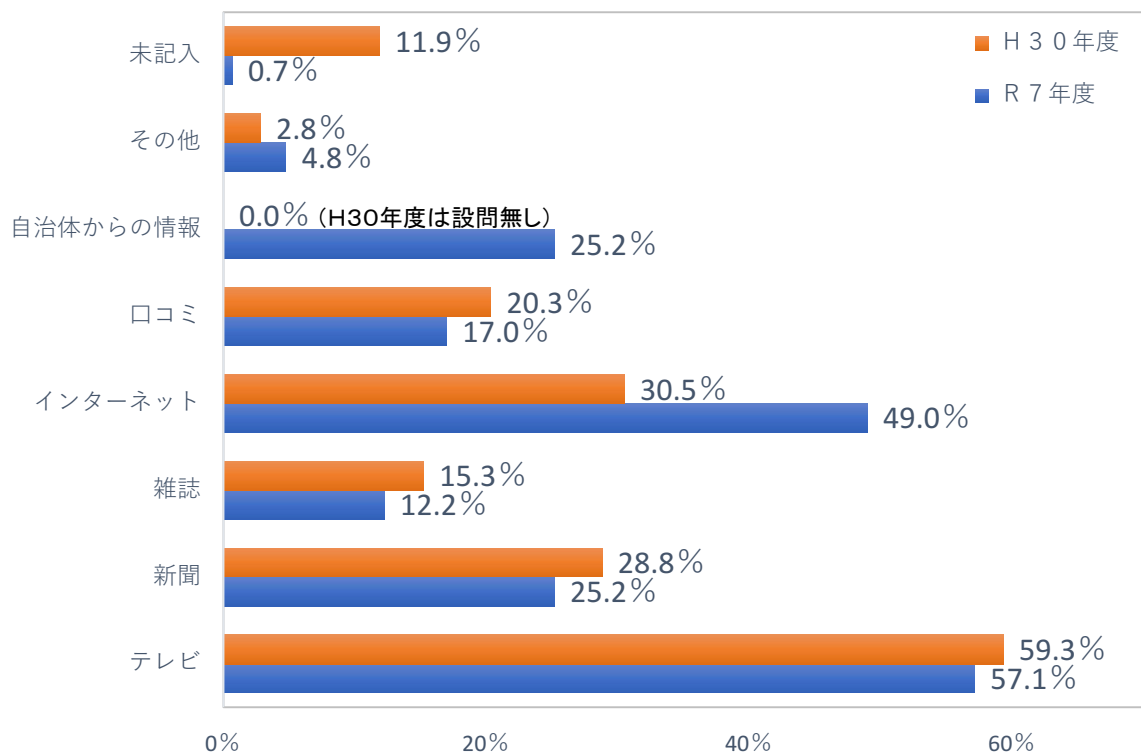


全体・村内ともに令和6年度より微減したが、関心がある人が多かった。

（６）健康のための情報は何から得ているか（複数回答）



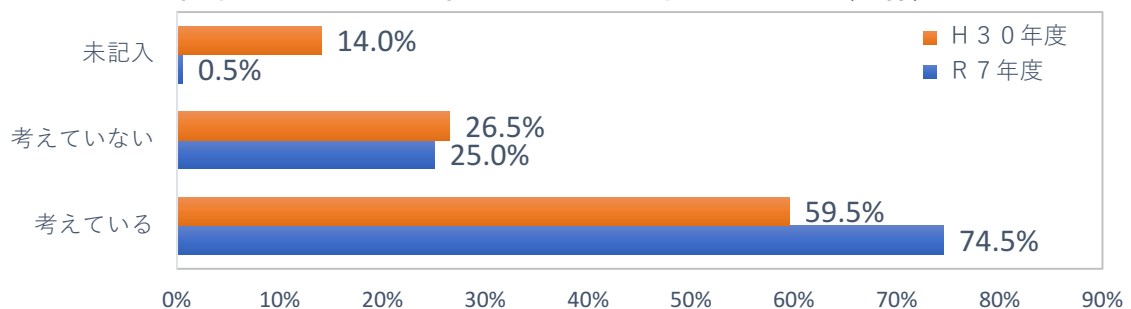
健康のための情報は何かから得ているか（村内のみ）



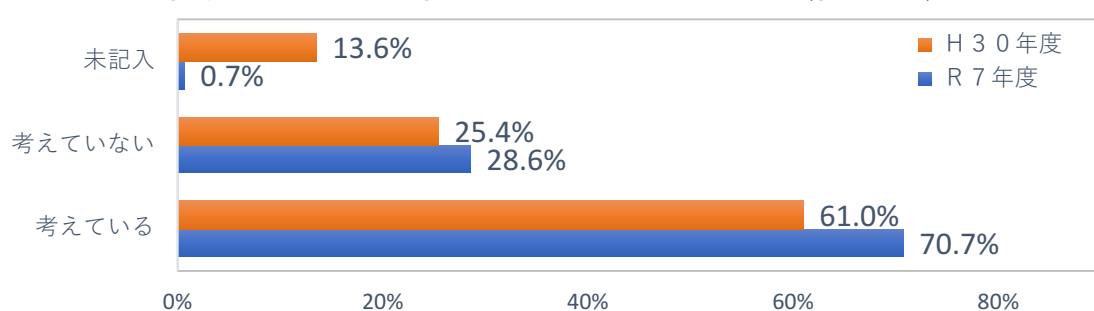
全体ではインターネット、村内ではテレビが最も多かった。全体・村内ともに、平成30年よりインターネットが約1.6倍増えている。

（7）健康のためにお金を使ってもよいと考えているか

健康のためにお金を使ってもよいと考えているか（全体）

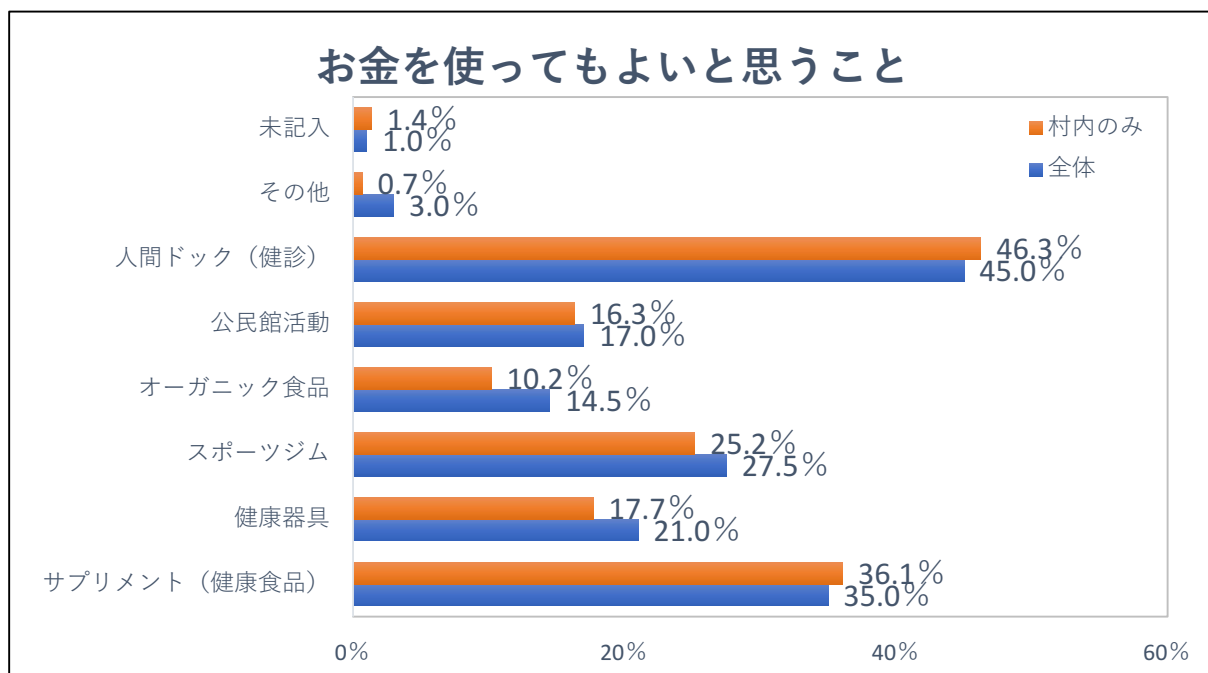


健康のためにお金を使ってもよいと考えているか（村内のみ）



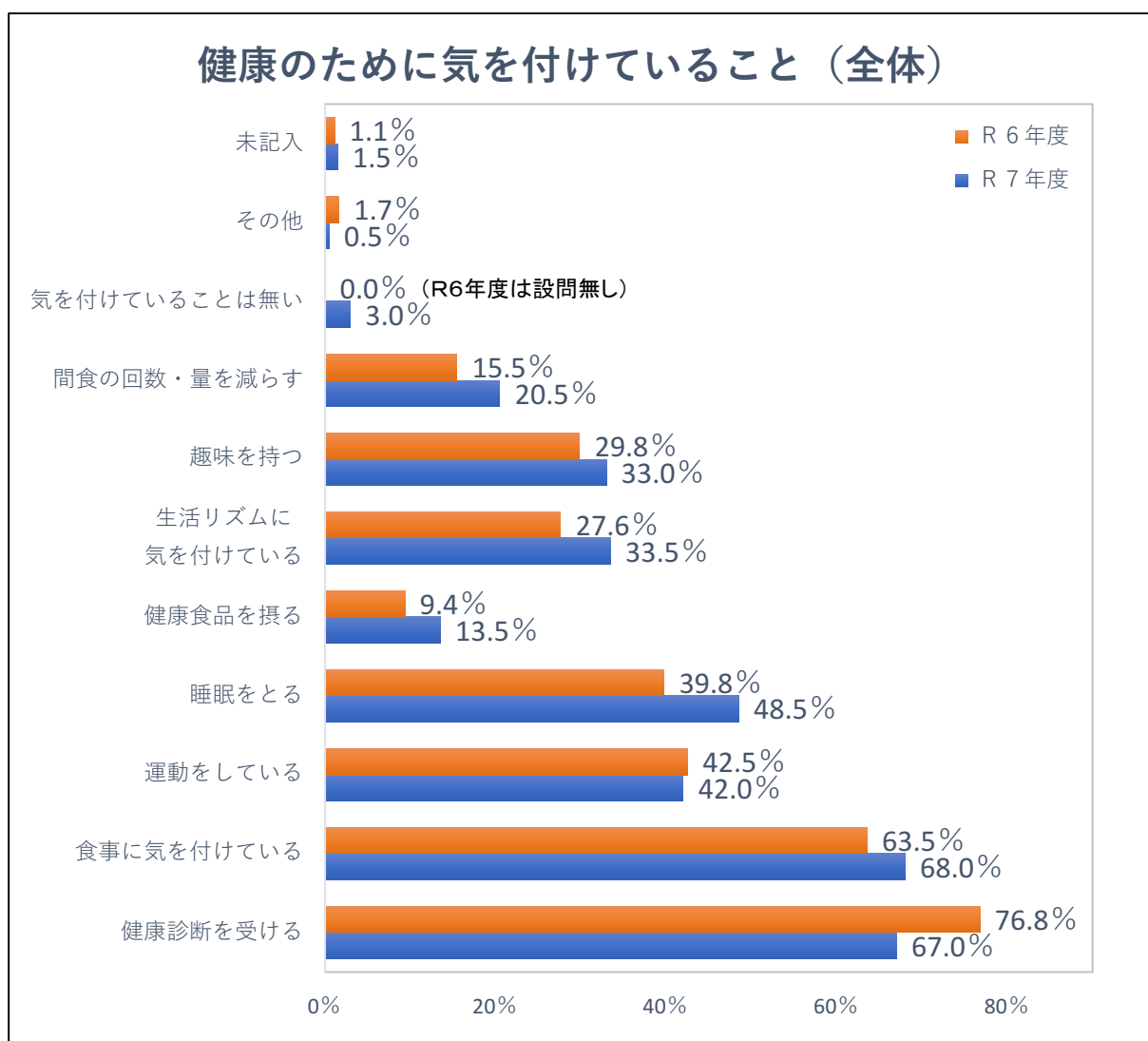
全体・村内ともに考えているが最も多く、平成30年より約1.2倍増えている。

(7-1) お金を使ってもよいと思うことは何ですか（複数回答）

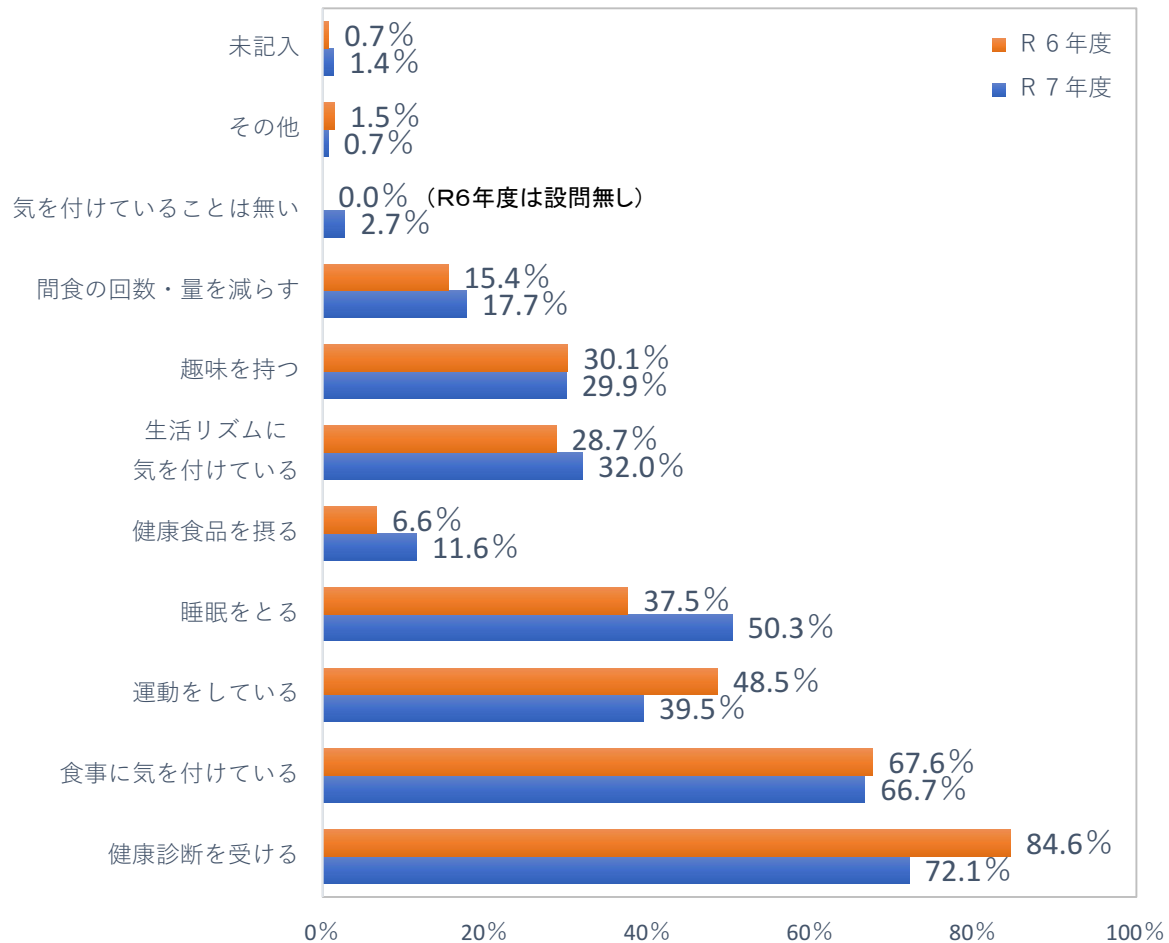


全体・村内ともに人間ドック（健診）が最も多く、次いでサプリメント（健康食品）が多かった。

(8) 健康のために気を付けていること（複数回答）



健康のために気を付けていること（村内のみ）

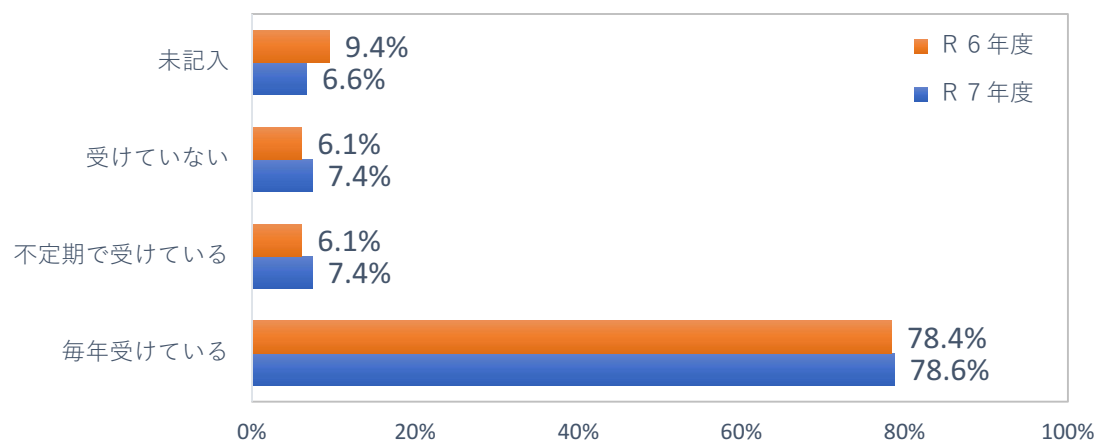


全体では食事に気を付けているが最も多く、村内では健康診断を受けるが最も多かった。

【住所が村内の方のみ】

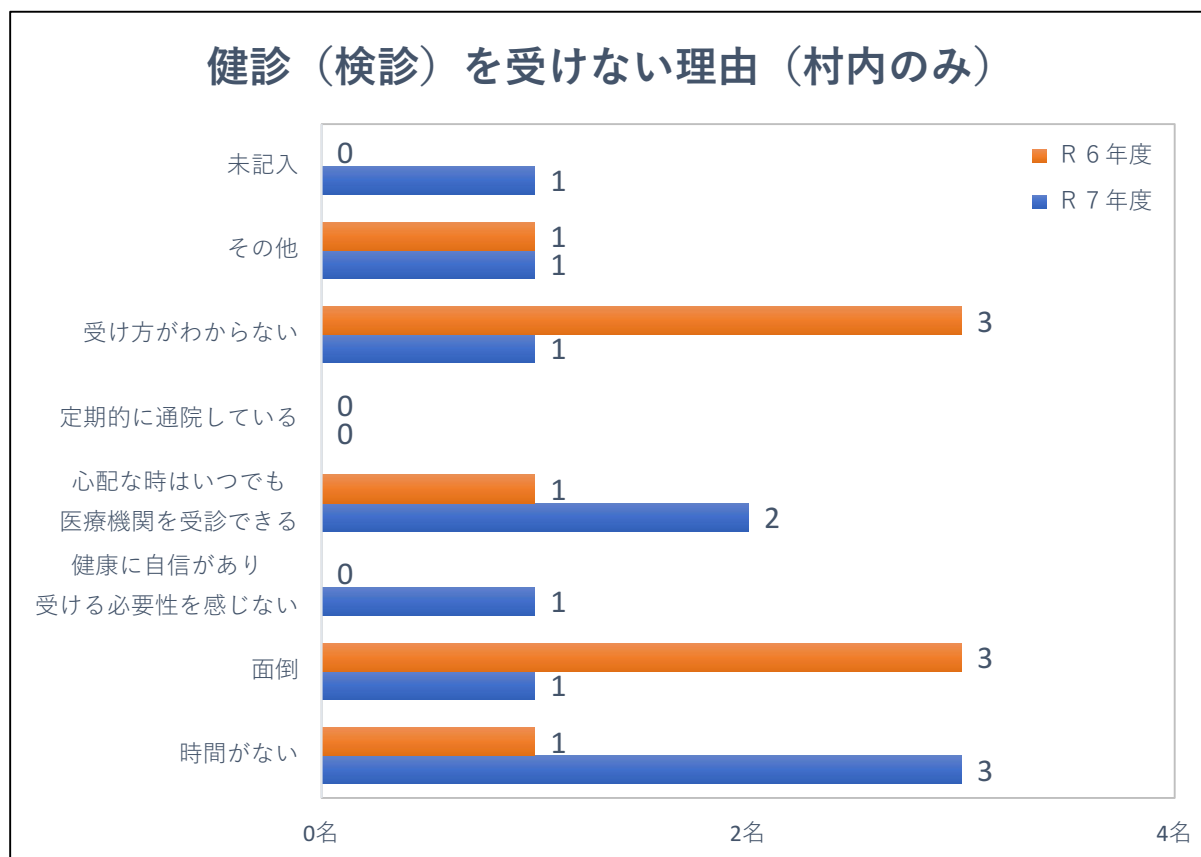
（９）健診・がん検診を受けていますか

健診・がん検診の受診状況（村内のみ）



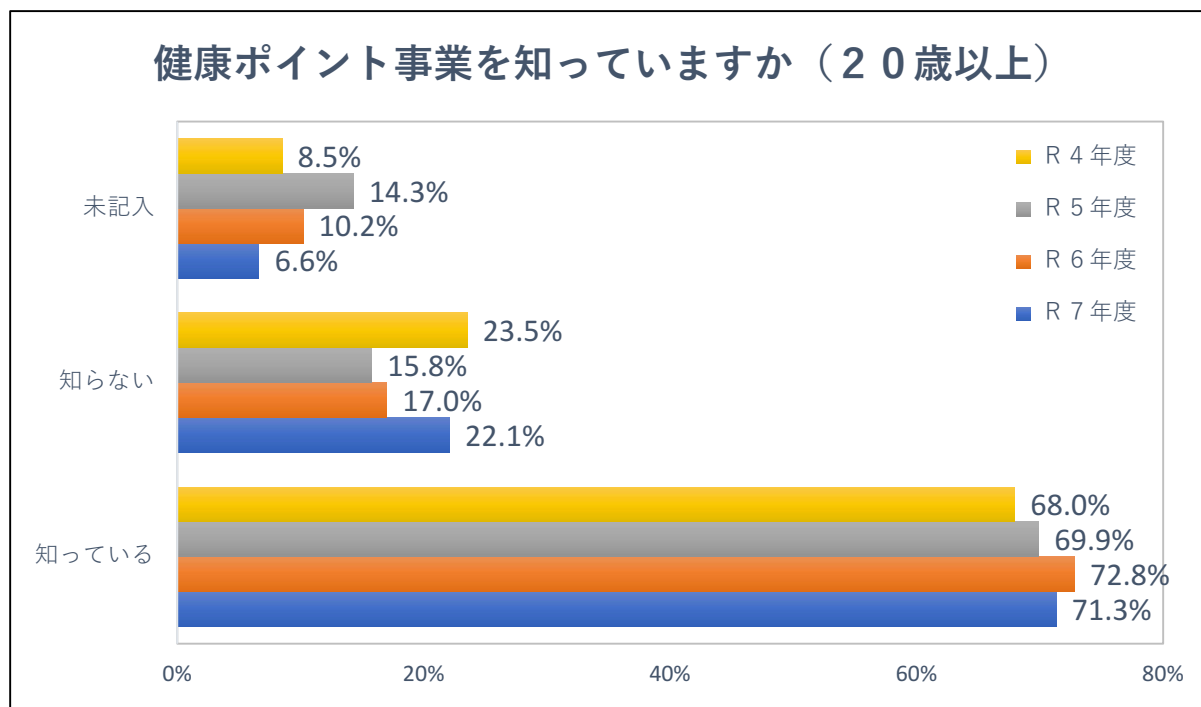
毎年受けているが最も多く、不定期で受けているも合わせると86.0%の方が受けている。

(10) 健診（検診）を受けない理由（複数回答）



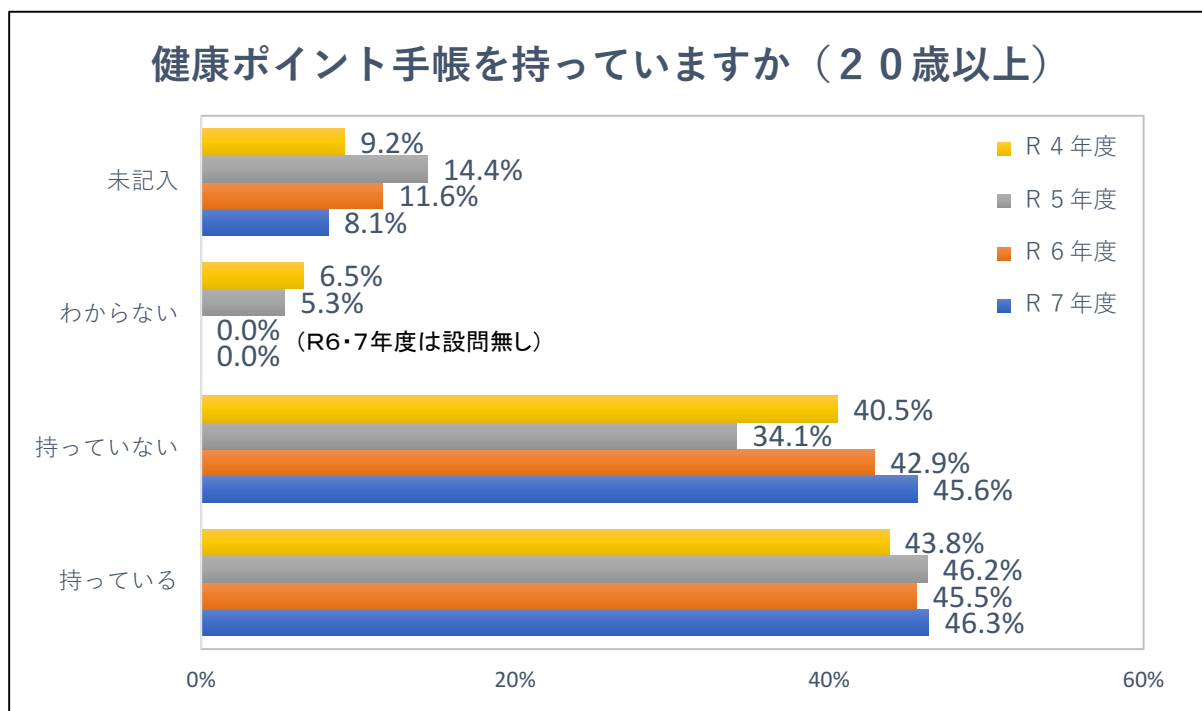
時間がないが3名で最も多く、次いで心配な時はいつでも医療機関を受診できるが2名だった。

(11) 日吉津村が実施している健康ポイント事業を知っていますか



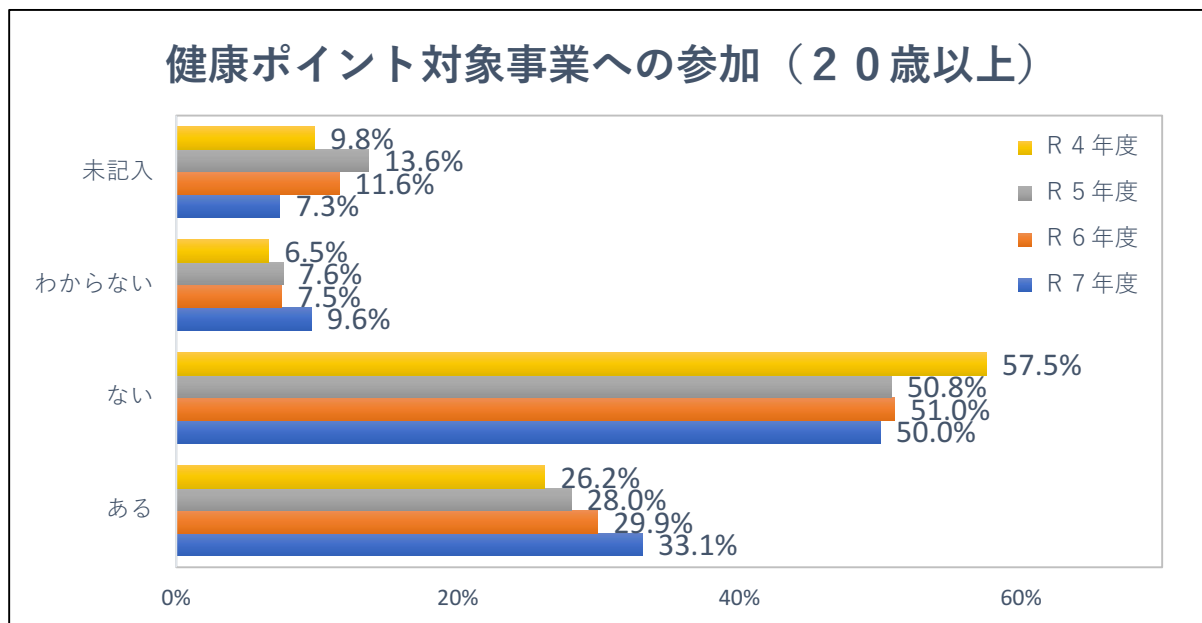
知っているが71.3%と最も多かったが、令和6年より1.5%減少していた。

(12) 日吉津村が配布している健康ポイント手帳を持っていますか



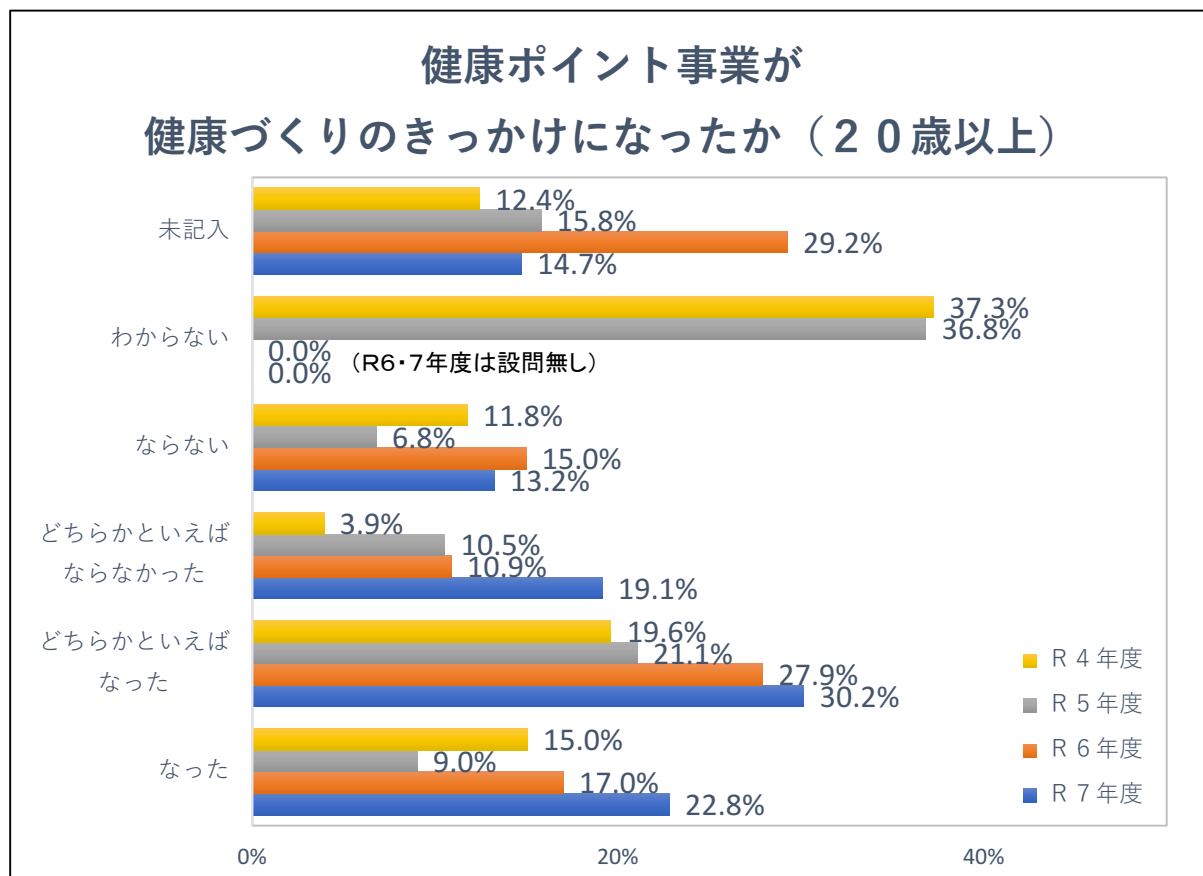
持っているが最も多く、令和6年度より0.8%増えていた。未記入が3.5%減っていた。

(13) 健康ポイント対象事業に参加されたことがありますか



健康ポイント対象事業への参加がある人が年々増えているが、参加がない人が50.0%と最も多かった。

(14) 健康ポイント手帳が健康づくり（運動や検診受診等）のきっかけになりましたか



なった・どちらかといえばなったを合わせると53.0%で、令和6年度より8.1%増えていた。

(15) 考察

健康について関心がある村内者は93.2%、関心がない村内者は4.8%で、令和6年度より健康への関心がある人が微減していた。

健康のための情報源は、村内者ではテレビが57.1%と半数以上を占め、影響力を感じた。また、インターネットが平成30年と比べると村内者・全体とも約1.6倍に増加していることから、手軽で身近な情報源となっていることがうかがえる。

健康のためにお金を使ってもよいと考えている村内者は70.7%、お金を使ってもよいと思う内容は人間ドック（健診）が46.3%で最も多く、健診受診率が県平均を上回っている状況を裏付ける結果が見られた。

健康のために気を付けていることでは、健康診断を受ける村内者は72.1%、食事に気を付けている村内者は66.7%と、健康意識が高く実践に結びついておられる様子がうかがえる。

健診（検診）を受けない理由は、時間がないと回答した人が最も多く年代は20～40歳代で、自分の体の健康について後回しになっていることが考えられる。

健康ポイント事業の認知度は、事業対象年齢の20歳以上で71.3%と7割を超えているが令和6年度より微減し、ポイント手帳所持者は46.3%と半数以下だが令和6年度より微増、対象事業への参加は33.1%で年々増加しているが約3割と少なかった。健康ポイント手帳が健康づくりのきっかけになったかについては、なっ

た22.8%、どちらかといえばなった30.2%で、合わせて53.0%と半数を超え、アンケート回答者では健康ポイント事業が健康づくりのきっかけとなっている状況がうかがえた。

健康ポイント事業への参加など健康づくりの取り組みにさらにつながり、自分自身の健康に関心を持ち健康寿命延伸へと結び付けてもらえるよう、今後も正しい情報発信や情報提供できる健康づくり事業を進めていきたい。